

ガンコ親父の

「えーっと、ほら、あの女優さんの名前、寅さんの妹役で出ていた女の人、誰でしたっけ？」と、妻の貴代（たかよ）が松次郎に尋ねた。顔は思い浮かぶものの、松次郎もすぐには名前が出てこなかった。喉の近くまで出てきているのだが、無理だった。

松次郎は還暦を過ぎる頃の腰痛や、虫歯の経験はあるものの、健康に対してはほとんど問題はなかった。健康診断でも同世代の糖尿病予備軍を鼻で笑い飛ばしていたくらいだ。ただ、記憶力だけは別物のようだった。

「お父さんも物忘れするようになったのね」と貴代が言っていると、「そういえば、『あの』とか『あれ』とか、が多くなつたよな、オヤジは。それにもう歳だし、気がつかないといけないんじゃないの」と次男の学（まなぶ）も続いた。松次郎は最近自覚しているだけに、他人の口から不安を増幅させる言葉など聞きたくなかった。よりによって、それも息子から。

「お前な、ちよつと人の名前が出てこなかっただけで、そんな言い方はないだろ」と、松次郎は切れた。「そうかな？心配して言ってるのに。わかったよ、もう言わないよ」と、学は肩の近くで両手のひらを上に向けた。学は翌週に宅配便の重い荷物を受け取った。ちよつとその週末が松次郎と貴代の三十九回目の結婚記念日で、兄弟全員で記念品を贈ることを決めていたのだ。

松次郎たちの結婚記念日には、同居している次男の学の家族の他に、長男・長女の家族も加わって大人数の夕食会になった。●「しまっちゅ伝蔵」を酌み交わし、賑やかさが増したところで学が結婚記念日のプレゼント品を手渡した。松次郎は「みんな悪いな、こんなことまでしてくれて」と、プレゼントを受け取るうとした。その瞬間、思いもよらぬ重量によるめいたが、**「オヤジ、いい思い出になるわ。」**ははは、**「重いで」と、陽気にダジャレを放った。**貴代が床の上に置いた包みを解くと、中からは世の中で大人気となっている「サバ缶」が現れた。パチパチパチと二人は拍手に包まれた。サバに含まれるオメガ3脂肪酸は脳にも良いらしい。サバ缶を自にした松次郎は表情を急変させ、喜ぶ貴代を尻目に慌ててトイレへと立ち上がった。

「オヤジ、腹の調子でも悪いのかな？」と学は首をひねった。「きつと胸がいつぱいになって、それを悟られたくないのよ。きつとトイレの中で感極まって泣いているはず」と貴代は微笑んだ。「うん、お婆あちゃんは今年いくつになったの？」と長男の息子「博喜」が尋ねた。「そっね、今年二十九歳よ。それを聞いた博喜は目を白黒させた。「ふふっ、今日は嬉しかったし、ちよつとサバ読んでみたかったのよ。サンキューね」と笑った。みんなの笑い声がトイレの中の松次郎まで聞こえた。学は俺の記憶力のことを本当に心配してくれたんだ。仕方がない、明日からサバ缶でも食ってみるか。松次郎は涙を拭いた。



奄美黒糖焼酎
しまっちゅ伝蔵
常圧蒸留
でん ぞう

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
常圧蒸留
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251



2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造はこの活動を応援しています。

好評発売中
25度

「サバ缶」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。